

総合的な学習の時間 「命と向き合う」

～ 職人の思いや願いから命の大切さについて考えよう。 ～

① 子どもたちと皮革産業をつなぐ

播磨光都に住む子どもたちにとって、たつの市の地場産業としての「皮革産業」を知る児童はいないのが現状である。そこで、子どもたちと皮革産業をつなぐ手立てとして、「たつの市には、どんな産業があるのか」という課題を社会科と関連付けて提示し、皮革産業への入り口とした。3大地場産業である「そうめん」「しょうゆ」についてはすぐに出てきたが、本学級の児童からは、「皮革」という言葉はでなかった。そこで、「皮革」という言葉を辞書で引き、「牛や動物の皮をなめすこと」という言葉から、牛についての興味付けを行っていった。子どもたちも、身近な存在である「皮革産業」について詳しい知識がないことを再確認し、大きな学習課題を「皮革産業について正しく知り、命について考えよう」と設定し、単元をすすめていくことにした。

<出発点になったスライド>



② 2冊の絵本からの取組

皮革産業や革製品などに関する資料を新宮図書館より集めるとともに、2冊の絵本を活用して学習を進めた。『きみの家にも牛がいる』と『いのちをいただく』の2冊である。

最初に『きみの家にも牛がいる』の絵本を通して、牛についての理解を深めた。子どもたちの感想には、『『鳴き声以外捨てる物は無い』という言葉から、たくさんの牛の命が人びとの役に立っていることを知った。』などが書かれており、多くのことを学ぶきっかけ作りになった。また、後半にも述べるが、『いのちをいただく』という絵本からは、職人の仕事への誇りや命の大切さに気づかされるような学習の展開ができた。

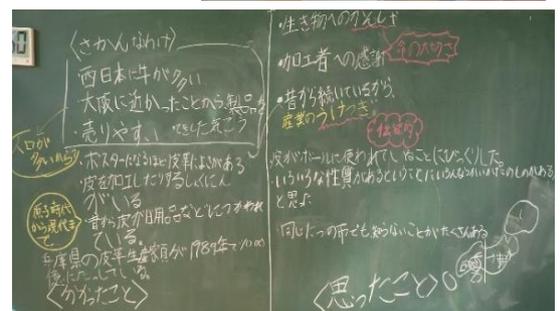


③ 皮革工場見学へのつなぎ

見学の前に、皮革産業について自分たちで調べてみたくなった子どもたちは、「ともだち」の資料を使って、分かったことや思ったこと、疑問などを出し合った。右の写真は、自分たちが分かったことをホワイトボードに可視化することで整理し、他のグループに伝えている場面である。



また、右の板書は、子どもたちがたつの市の皮革産業について分かったことをまとめたものである。「同じたつの市でも知らないことがたくさんある」という子どもたちのつぶやきから、実際に工場へ行き、見学を通して学ぼうというように学習を仕組んでいった。



④ 工場見学から学んだこと

本校は3年前から、この「キタヤ」さんに工場見学を依頼している。しかし、先輩から聞く皮革工場の感想は、「においがきついよ」というマイナスな意見であった。ここ

まで学習を進めた子どもたちは、それは「おかしい」と感じて実際に見学を行った。皮から革へ生まれ変わる工程だけでなく、働く人の思いもインタビューをする事ができ、子どもたちは「革のよさ」や「皮革産業の素晴らしさ」を学び取ることができた。

⑤ 『いのちをいただく』の絵本から～食肉工場働く人の思いを知る～

絵本『いのちをいただく』というものを題材にして、食肉工場働く坂本さんの思いにせまる学習を行った。「仕事に対する思い」と「命の尊さ」の2つの切り口から学習を展開した。

当たり前のように食べている牛肉ですが、誰かが「命を解く」ことをしないと食べられません。坂本さんの揺れ動く思いを真剣に考えながら、自分にできることを結論づけられるよい機会となった。



⑥ 学びをつなぐ

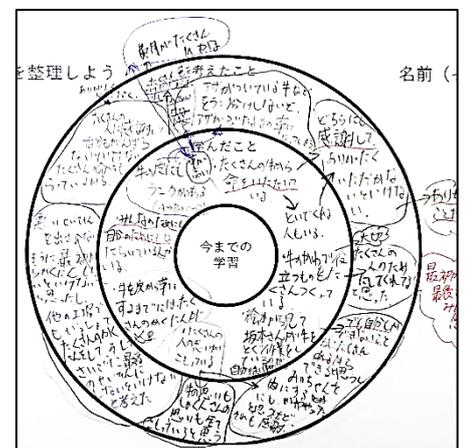
道徳の時間を活用して、これまでの皮革について学んだことなどを整理した。掲示物や今までのワークシートを活用して、自分が「学んだこと」「考えたこと」について、自分と真剣に向き合いながらワークシートにまとめていった。<図1>

<図1：ワークシート>

<学習を通して子どもたちから出たいろいろな考え>

- ・感謝をしながら命をいただかないといけない。
- ・職人さんの思いを大切に ・職人さんの技術のすごさ
- ・仕事に誇りを持って取り組んでいる ・商品へのこだわり
- ・お客さんの気持ちを考えて作業をしている
- ・作っている人にも感謝が必要 ・みんなに感謝しないといけない

この学びをいかしながら、道徳で、「皮革に携わる人の思い」を資料を通して考え、学習の総まとめをした。

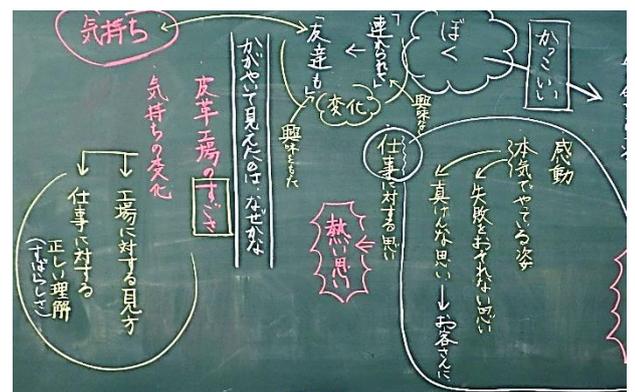


⑦ 工場まで輝いて見えたのは... (主題)

道徳の学習では、皮革工場の総まとめとして、資料の主人公を自分と重ねながら学習をした。仕事に誇りを持ち、真剣にお客様のことを考えて働くおじさんのかっこよさから、皮革工場に対する見方・考え方を5年生の子どもたち自体も再度、考える機会になった。主に子どもたちから出た意見は2つである。

<黒板②> ・皮革という仕事に対する見方が変わった。
 ・皮革の仕事に対して、正しく理解できた。
 このことから、気持ちの変化が見える景色を変えていったという結論であった。

<黒板②>



終わりに

5年生では今回の学習後、「4年生が『皮革工場ってどんなところなん。』って聞かれたらどう答えますか。」という発問をした。「一生懸命にぼくたちのために働いてくれるところ」「命を解いた牛を使って、私たちに必要な革製品のもととなるものをつくってくれている仕事」などの答えが返ってきた。子どもたちと共に、「皮革産業について正しく知り、命について考える」という課題は、今年の5年生にとっては、解決することができた課題であったように感じる。